

線をひいて考える

国語を学ぶことと思考の補助線を引くこと

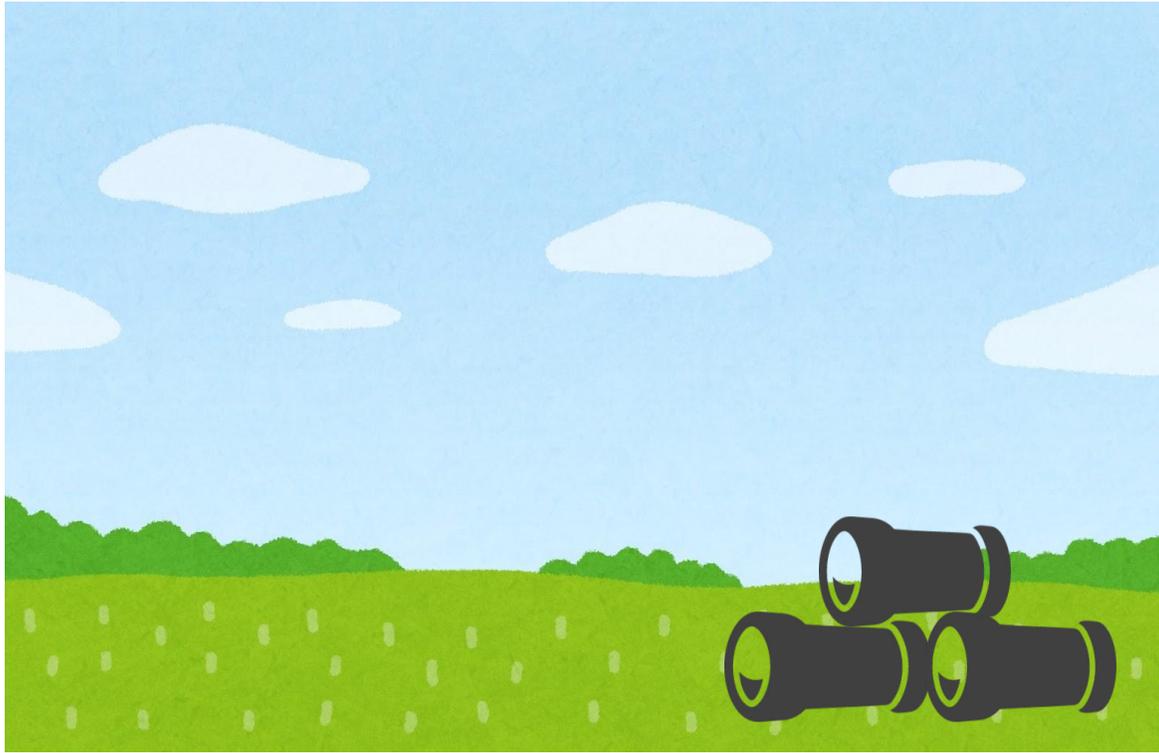


流れ

- ① 原っぱと遊園地
- ② 2つのものを対立させること
- ③ 「～をする話」から「～になる話」へ
- ④ 線を引いて考える

① 原っぱと遊園地

Q: 2つの場所での遊び方の違いは？



① 原っぱと遊園地

- 【遊園地】

→ こうやって過ごす楽しいよと遊び方がすでに決まっている

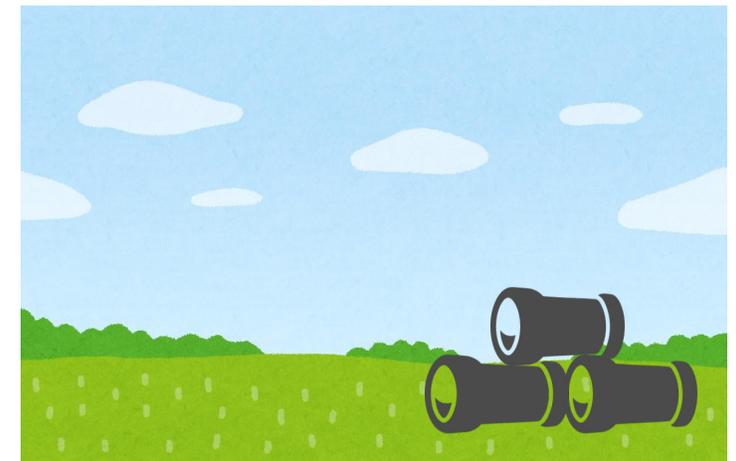
- 【原っぱ】

→ その場にある土管などを使い自分で遊び方を考えていく

本を読んで考えることに決まりきった答えはなく、自分で自由に読み方(遊び方)を考えるなかで新たな可能性に気付いていく

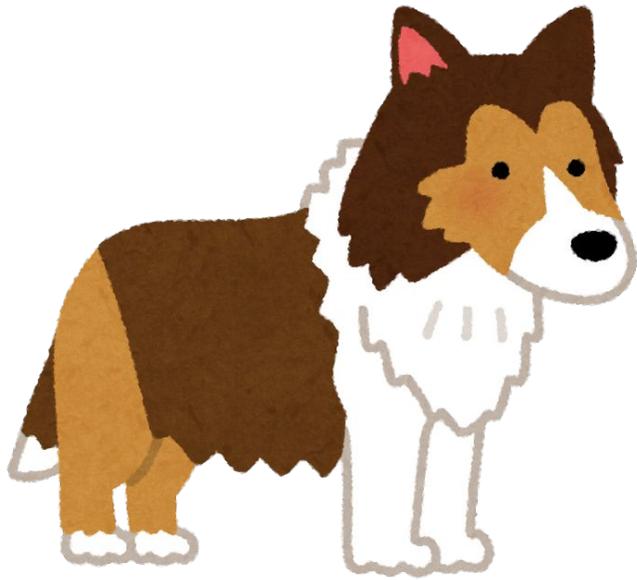
原っぱでの遊び方を学ぶこと

⇒ 線の引き方を学ぶこと?



② 2つのものを対立させること

「ココ」



その他大勢



② 2つのものを対立させること

「ココ」という名前がなければ、ペットショップに行っても犬がいっぱいいるということ以上のことはいわれない。名前をつけることでこの犬は他とは違うものだと思われるようになる



② 2つのものを対立させること

2つのものを対立させて考える(=二項対立)

わたし／あなた、前／後、内／外、身体／心、…

対立させて考えることでそれぞれの輪郭がはっきりし
「分ける」ことで「分かる」ことができる

評論文(説明文)を読むこと

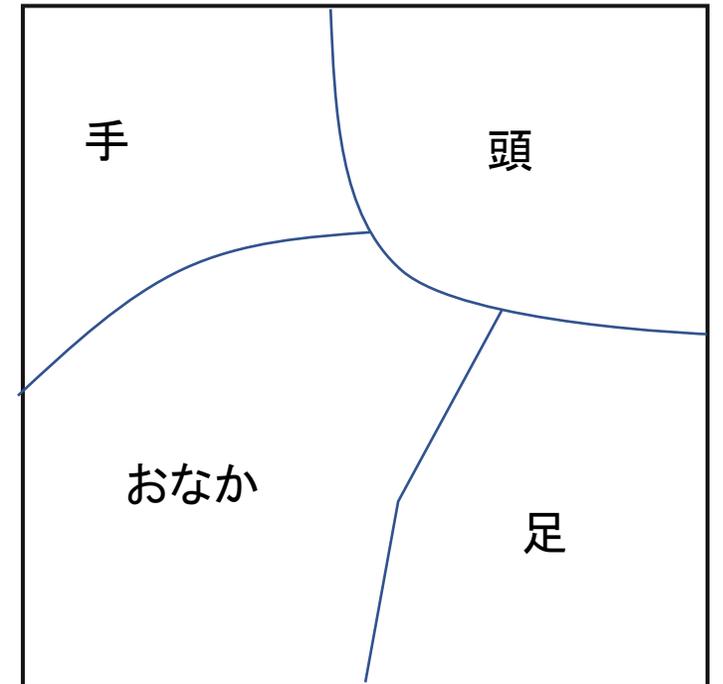
= 新たな線の引き方を学ぶこと

新しい世界の「形」として「分かる」こと

② 補) 2つのものを対立させること

身体が痛むとき、赤ちゃんは身体のどこで異常事態が起きているかわからず泣いて伝えることしかできないが、そのとき「おなか」が痛いのか、「足」をぶつけたのか、「手」がかゆいだけなのか、誰かに指し示されて線が引かれることで、その範囲で「痛い」のだと区別ができるようになる

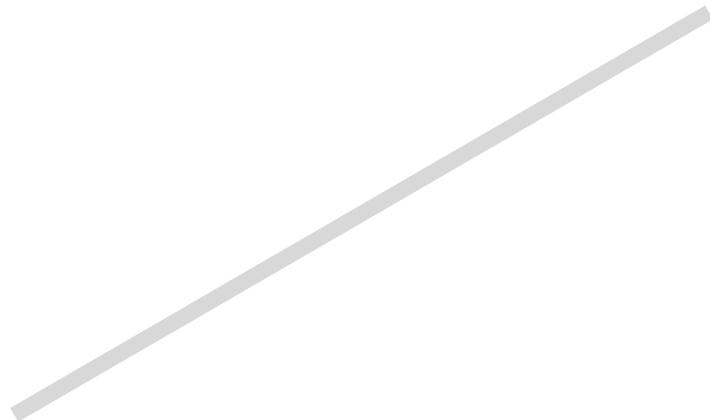
身体のイメージとは？



③ 「～をする」話から「～になる」話へ



～をする話



～になる話

③ 「～をする」話から「～になる」話へ

例) 映画ドラえもん

(いつもの日常) ⇒ 非日常 ⇒ いつもの日常

(～をする ⇒ あらすじ)

ふだんとは違う世界に冒険に行き、時々世界を救ったりして再びいつもの世界に帰ってくる話

(～になる ⇒ 内面の変化)

友達の大切さ、想像力のもつ可能性や創造性に気づく話

③ 「～をする」話から「～になる」話へ

あらすじをおえば「～をする」話としては読めるが、
その後ろには必ず主人公のなんらかの変化（「～になる」）がある
（⇒小説を読むこと）

主人公の成長や気持ちの変化などは、
話の始まりと終わりの間に線を引いてみることで見えてくる

その変化に気づけば、主人公に共感したり自分ならと考えたりして自分の
世界を広げることができる

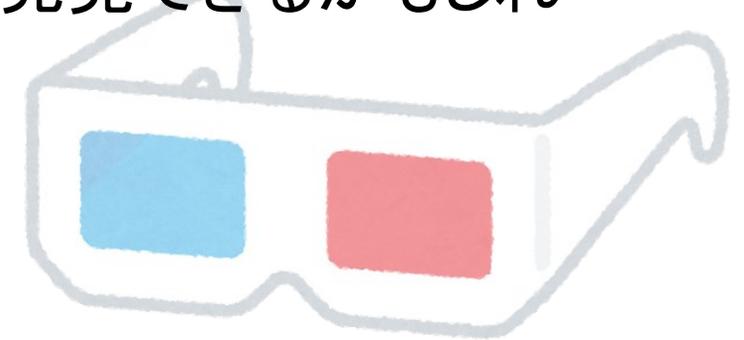
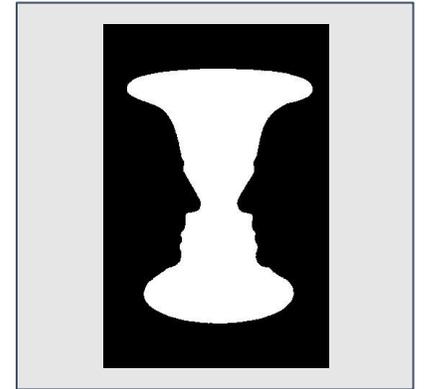
④ 線を引いて考える

・国語を学ぶこと

⇒ 線の引き方を学ぶこと

・線の引き方を学び世界を見る網の目を細かくしていくことで、ふだん見落とされていることに気づくことができるようになる

→ 線の引き方を学ぶことで、新たな世界の広がりを見発見できるかもしれない



おわり

国語を学ぶことと思考の補助線を引くこと



まずはやってみよう①

- 問題文を線を引いて考えてみよう

- A:

(特徴)

- B:

(特徴)

→ 筆者の言いたいことはAとBどちら？その理由は？

まずはやってみよう②

- 自分の好きな物語を線を引いて考えてみよう

- 「～をする」話:

- 「～になる」話:

→ 主人公や周りの人になにか変化はあった？そのとき自分はどう思った？

おまけ) 線の向こう側へ

- 当たり前のように引いていた線があるとききれいには引けないことに気づく
(cf.)『生物と無生物のあいだ』 etc.
- 日常的なことから無意識のうちに引いている線を意識化すること
線を「発見」し、ときに「引き直す」ことが「考える」ということ

おまけ)参考図書

- 『原っぱと遊園地』 青木淳著

昔、鷺田清一が本の中で引用してたのを思い出し導入にもってきました。原っぱと遊園地は背反関係にあるわけではなく場合によってはどちらにもなり得るが、近年様々な建物が「遊園地化」してきているのではという作者の警鐘は、「わかりやすさ」がとかく重視されがちな現代において大事な視点だと思います。

- 『教養としての大学受験国語』 石原千秋著
- 『大学生の論文執筆法』 石原千秋著
- 『現代文 キーワード読解』浅野直樹・榎吉郁夫著
- 『生物と無生物のあいだ』福岡伸一著

Tips) 評論文(説明文)

- 傍線部の前後でそこで何の話がされているかを見る
- 選択肢に注目する
 - 選択肢を見比べたときにそれぞれの違いを整理する
 - 筆者はこのことについてどう説明していたか、それはいい／悪いどちらで言った？
- 接続詞に注目する
 - 「だが」とか「しかし」とかのひっくり返す系の接続詞に注目する
 - そうじゃなくてこういうことだ、というのが定番の形
 - 「しかし」とかひっくり返す言葉の後には主張したいことがよくくる
 - 「つまり」や「したがって」はまとめの合図
 - 今まで言いたかったことをまとめたり強調したりするマーク

Tips) 小説

- 登場人物を整理する
- 主人公は他の登場人物に対しどう思っているかに注目する → 感情の変化にも注目
- 傍線部の前後とそこで何が聞かれているかを見る
- 選択肢に注目する
 - 選択肢を見比べたときにそれぞれの違いを整理する
 - 選択肢がそれぞれプラスの感情かマイナスの感情かを整理する
 - 聞かれてる場所の前後を読み、プラスの感情かマイナスの感情か判断する
 - ⇒ だいたいプラスかマイナスかの違いで2択に絞れたりする
 - ⇒ プラスかマイナスのところで間違わないこと！